

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

基本目標別評価集計	A	B	C	D
	38	40	8	0

施策の方向 1 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課				
具体的施策 28 企業等への広報・啓発								
福岡市次世代育成支援推進協議会	福岡市子ども総合計画の進捗状況等について協議する。	<p>子ども・若者育成支援推進法の施行に伴い、協議会の委員の再編及び部会の再編を行った。</p> <p>福岡市子ども総合計画の進捗状況等について、協議を行った。</p> <p>また、「子ども・若者の現状と課題」について協議を行い、市と次世代育成支援推進協議会の主催で「子ども・若者フォーラム」を開催した。</p> <p>〈総会、子育て部会、子ども・若者フォーラム 各1回開催〉</p>	B	こ) 総務企画課				
		<p>予 算 額</p> <table style="margin: auto; border: none;"> <tr> <td style="padding: 0 10px;">24年度予算額</td> <td style="padding: 0 10px;">23年度予算額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 0 10px;">631千円</td> <td style="padding: 0 10px;">〈653千円〉</td> </tr> </table>	24年度予算額	23年度予算額	631千円	〈653千円〉		
24年度予算額	23年度予算額							
631千円	〈653千円〉							
市民や企業と共働した子育て支援	平成26年度末までに、賛同企業・団体数を1500にする。	<p>子どもの健やかな成長を考える“きっかけ”となるよう、企業・団体に対して、“「い～な」ふくおか・子ども週間♡”賛同を呼びかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年3月末現在賛同数 900企業・団体 〈平成24年3月末賛同数 948企業・団体〉 ・働く人の認知度を向上するため、週間に合わせ、市営地下鉄駅構内で通勤時間帯に放送 ・“「い～な」ふくおか・子ども週間”ホームページに賛同企業・団体名及び取り組みを掲載するとともに、呼びかけ強化 ・月間(8～10月)を設定し、市役所全庁に呼びかけ ・ノ～残業デーの実施 ・子ども参観日の実施(8月3日) ・経済誌掲載 	B	こ) 総務企画課				
		<p>予 算 額</p> <table style="margin: auto; border: none;"> <tr> <td style="padding: 0 10px;">24年度予算額</td> <td style="padding: 0 10px;">23年度予算額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 0 10px;">4,432千円</td> <td style="padding: 0 10px;">〈21,628千円〉</td> </tr> </table>	24年度予算額	23年度予算額	4,432千円	〈21,628千円〉		
24年度予算額	23年度予算額							
4,432千円	〈21,628千円〉							
「い～な」ふくおか応援団	関係局との連携を図り、庁内のワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	<p>○「い～な」ふくおか応援団会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度実績報告 ・平成24年度計画 <p>○社会貢献優良企業優遇制度 (次世代育成・男女共同参画支援事業分)</p> <p>○他の制度・事業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エコ&い～な」早帰りチャレンジデー 	B	こ) 総務企画課				
		<p>予 算 額</p> <table style="margin: auto; border: none;"> <tr> <td style="padding: 0 10px;">24年度予算額</td> <td style="padding: 0 10px;">23年度予算額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 0 10px;">-</td> <td style="padding: 0 10px;">-</td> </tr> </table>	24年度予算額	23年度予算額	-	-		
24年度予算額	23年度予算額							
-	-							

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
福岡市次世代育成支援フォーラム	セミナーの実施により、企業のワーク・ライフ・バランス推進を図る。	○ワーク・ライフ・バランスセミナー 「一流の中小企業を目指して」 日時：平成24年11月20日(火) 場所：アミカス ホール 主催：福岡市、福岡市次世代育成支援推進協議会 参加者数：70名(193名) 〔基調講演〕 拓新産業㈱ 代表取締役 藤河 次宏 氏 〔ワールドカフェ〕 (有)サイズコミュニケーション 代表取締役 高見 真智子 氏	A	二) 総務企画課
		予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 946千円 (946千円)		
「い〜な」ふくおかワーク・ライフ・バランスネットワーク形成事業	産・学・官でワーク・ライフ・バランス推進のためのネットワーク形成を図り、仕事と生活の調和がとれたまちを目指して取り組む。	市内企業の人事労務担当者を対象にワーク・ライフ・バランスモデル企業の創出やネットワーク形成に向けて産学官による研究会を開催した。 1 参加企業 7社 <11社> 2 活動実績 (1) ワーキング 5回 経営戦略としてのワーク・ライフ・バランスの理解、各社の課題整理から各社のアクションプランづくり (2) イベント ①学生対象のワールドカフェ「学生未来応援団！ 幸せな働き方学習カフェ」 ②北九州ダイバーシティネットワーク視察 (3) 調査・研究 ①大学生の意識調査「ワーク・ライフ・バランスに関するアンケート」 ②ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業の経営データの分析	C	二) 総務企画課
		予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 3,950千円 (8,000千円)		
経営トップを対象としたワーク・ライフ・バランスセミナー	経済団体への橋渡しなど、他局のワーク・ライフ・バランスの普及・啓発事業への協力を行っていく。	○ワーク・ライフ・バランス講演会 ワーク・ライフ・バランスの推進に率先して取り組む企業経営者による、企業や個人のためのワーク・ライフ・バランスに関する講演会 テーマ：「一流の中小企業を目指して」 基調講演：拓新産業株式会社代表取締役 藤河次宏 氏 情報交換(ワールドカフェ)「スモールステップから始めよう」 ファシリテーター：有限会社サイズコミュニケーション代表取締役 高見真智子 氏 参加人数：70名<74名>	A	経) 就労支援課 ※24年度は、雇用労働課
		予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 447千円 (957千円)		
企業のワーク・ライフ・バランス支援事業	ワーク・ライフ・バランスを推進するため、企業への意識啓発を図る。	○ワーク・ライフ・バランスセミナー 企業のワーク・ライフ・バランスの普及・促進に向けて、個々の企業のニーズに柔軟に対応できる出前形式のセミナーを実施。 内容 3つのコースから選択 ①初歩から学べる入門編(一般従業員向け) ②経営戦略につなげる基礎編(経営者・管理職向け) ③ワークショップ形式の実践編(人事・労務担当者向け) 対象 市内企業 講師 NPO法人ジェンダー研究所 受講企業数 17社	B	市) 男女共同参画課
		予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 768千円 (795千円)		

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課						
<p>社会貢献優良企業優遇制度 (次世代育成・男女共同参画支援事業分)</p>		<p>申請及び認定企業:30社(27社) 認定期間:H24.8.1～H25.7.31</p> <p><認定基準> 「い～な」ふくおか・子ども週間」に賛同し、下記のア、イ、ウいずれかの基準をみたす地場企業(本市に本店を有する企業)を社会貢献優良企業に認定する。 ア、「次世代育成支援対策推進法」に基づく一般事業主行動計画に定めた目標を達成した等、厚生労働大臣(都道府県労働局長)の認定を受けていること。かつ、引き続き新たな計画を策定し、福岡労働局へ届け出ていること。 イ、下記のア、Bをいずれもみたすもの A.「次世代育成支援対策推進法」に基づく一般事業主行動計画を策定し、福岡労働局へ届け出ていること。 B.「育児・介護休業法」に規定する制度の基準を上回る下記6項目のうち、2項目以上の措置について、就業規則等に規定していること。 かつ、平成21年4月1日から平成24年5月31日までの期間に、1項目以上の利用実績があること。なお、a、b、c、eについては1ヶ月以上の利用実績があること。 a. 育児休業について、満1歳以上の子を対象とする。 b. 勤務時間の短縮について、満3歳以上の子をもつ従業員を対象とする。 c. 所定外労働の免除について、満3歳以上の子をもつ従業員を対象とする。 d. 保育施設の設置運営について、満3歳以上の子をもつ従業員を対象とする。 e. 時間外労働の制限について、小学校入学後の子を養育する従業員を対象とする。 f. 介護休業について、要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とすることに1回、通算して93日間を超える期間を対象とする。 ウ、下記3項目すべてをみたすもの A. 平成24年6月1日現在の女性の係長相当職以上の管理職比率が20%を超えること。 B. セクシュアル・ハラスメントに関する相談・苦情に対処するための相談窓口を設置していること。 C. 平成23年度中に女性社員の活躍促進など男女共同参画に関する研修を実施したこと。</p>	B	市) 男女共同参画課						
<p>具体的施策 29 育児・介護休業制度に関する広報と情報提供</p>										
<p>広報紙の発行</p>	<p>先進的な取り組みを行っている企業の情報収集に努め、積極的に紹介していく。</p>	<p>広報紙「アミカス」において、女性の登用やワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組む企業を紹介した。 紹介回数:2回(2回) 紹介企業:(株)清和(94号) (株)大建(95号)</p> <table border="1" data-bbox="555 1473 1209 1563"> <thead> <tr> <th colspan="2">予 算 額</th> </tr> <tr> <th>24年度予算額</th> <th>23年度予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	予 算 額		24年度予算額	23年度予算額	-	-	A	市) 事業推進課
予 算 額										
24年度予算額	23年度予算額									
-	-									
<p>勤労者総合啓発事業</p>	<p>勤労者総合啓発誌「働くあなたのガイドブック」をできるだけ多くの窓口配布し、労働関係の法令や助成制度、窓口の基礎知識の周知に努める。</p>	<p>(具体的施策 19再掲) 労働関係法令などを掲載した勤労者総合啓発誌を作成し、市民をはじめ労働団体・企業主等に配布することにより勤労者の生活及び福祉の向上を図る。 啓発誌「働くあなたのガイドブック」(平成24年度に増刷)の配布ページ数:52ページ 配布先:国・県等の関係機関、情報プラザ、区役所、市内高校等 ※1,000部を24年度増刷</p>	A	<p>経) 就労支援課 ※24年度は、雇用労働課</p>						

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
<p>具体的施策 30 仕事と生活の調和のとれた生き方の普及</p>				
<p>男女の自立や男女共同参画を促進するための講座等</p> <p>☆アミカス講座</p>		<p>○男性向けセミナー 男性と若年層を対象とした多様なテーマの講座及び父と子を対象とした料理教室等を実施。 ◆パパと子どものクッキング 全2回(全2回) 講師:横尾妙子(管理栄養士) 参加者数:延べ50人【男:35人,女15人】 (延べ41人【男:26人,女15人】) ◆男性カレッジ 全4回(全4回) 講師:宮原礼智(ファザーリング・ジャパン九州代表理事)ほか 参加者数:延べ81人(延べ116人)</p> <p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額</p>	A	市) 事業推進課
<p>広報紙の発行</p>	<p>広報紙に関しては、紙媒体から電子媒体へ移行していくことを考慮に入れ発行する。</p>	<p>(具体的施策 8再掲) 男女共同参画推進センターの事業等を紹介するとともに、女性問題解決のための情報提供や啓発を行った。 ○広報紙「アミカス」の発行 発行回数:年4回<同左> 発行部数:9,000部/回<同左> 配布先:全国の男女共同参画行政機関・施設、マスコミ、近郊大学・短大、市内の企業・病院、市情報プラザ、市民センター等 ○情報紙「アミカスカワラ版」の発行 発行回数:毎月1回 発行部数:3,000部/回<同左> ○アミカス図書室情報案内の発行 発行回数:毎月1回 発行部数:1,000部/回<同左></p>	A	市) 事業推進課
<p>具体的施策 31 市役所における育児・介護休業中の男女への支援</p>				
<p>育児休業中の職員に対する研修</p>	<p>育児休業中の職員に対する研修を行うことにより、円滑な職場復帰とキャリア形成を支援する。</p>	<p>「リラックス研修」(育児休業者の職場復帰前研修)を実施。 ○集合研修 (経験者による体験談、育休中の職員同士の意見交換等) 【1回目】約2時間半(約2時間半) 参加者:育休中の職員11名(16名)、一般職員なし(0名) 【2回目】約2時間半(約2時間半) 参加者:育休中の職員13名(13名)、一般職員2名(1名) 【3回目】約2時間半(約2時間半) 参加者:育休中の職員22名(20名)、一般職員0名(1名) ○OA操作練習(庶務管理等新規導入システムの操作練習) 8回実施、参加者:計16名(13回実施、参加者:計20名) ○eラーニングによるキャリアデザイン研修 受講者:4名(12名)</p> <p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 76千円 (138千円)</p>	A	<p>総) 人材育成課</p> <p>※24年度は、 総) 職員研修センター</p>
<p>福岡市特定事業主行動計画に基づく仕事と家庭の両立支援策の推進</p>	<p>①子どもが生まれた男性職員のうち、育児休業を取得した市職員の割合【H26】5%以上 ②子どもが生まれた男性職員のうち、出産・育児支援休暇を取得した市職員の割合【H26】90%以上 ③市職員の年次有給休暇の年間平均取得日数【H26】16日以上</p>	<p>・年次有給休暇等の取得促進に向けた啓発を行うとともに、年次有給休暇取得率が低い(5日以下)職場に対するヒアリングを実施。4件(4件) ・「時間外勤務の縮減に関する指針」(平成24年4月)に基づき縮減に向けた取り組みを実施。 本市職員一人あたりの時間外勤務時間数:161時間(H16年度)→131時間(H23年度) ・行動計画における目標数値の実績(H23年度) ①3.2% (3.6%) ②96.1% (90.4%) ③15.2日(15.1日) ※()内は22年度実績</p> <p>24年度予算額 23年度予算額</p>	B	総) 労務課

施策の方向 2 男性の家庭・地域への参画促進

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
具体的施策 32 男性への意識啓発				
男女の自立や男女共同参画を促進するための講座等 ☆アミカス講座		(具体的施策 30再掲) ○男性向けセミナー 男性と若年層を対象とした多様なテーマの講座及び父と子を対象とした料理教室等を実施 ◆パパと子どものクッキング 全2回(全2回) 講師:横尾妙子(管理栄養士) 参加者数:延べ50人【男:35人,女15人】 (延べ41人【男:26人,女15人】) ◆男性カレッジ 全4回(全4回) 講師:宮原礼智(ファザーリング・ジャパン九州代表理事)ほか 参加者数:延べ81人 (延べ116人)	A	市) 事業推進課
活力あるまちづくり支援事業		(具体的施策 9再掲) 活力あるまちづくり支援事業補助金の交付を通じて自治協議会が行う男女共同参画の推進に関する取り組みを支援した。 補助金交付団体数 148団体(148団体) (うち147団体については自治協議会へ交付、残り1団体については自治協議会未設立のため各種団体へ交付)	A	市) コミュニティ推進課
公民館における男女共同参画学習講座のうち主に男性を対象とするもの	公民館主催事業(男女共同参画学習講座のうち主に男性を対象とするもの)実施館数の増加 18館	公民館主催事業のうち男女共同参画学習講座を重点事業として実施。そのうち主に男性を対象としたもの。 公民館数 12館(13館) 回数 42回(48回) 参加人数 831人(1,032人)	C	市) 公民館調整課
		予 算 額(予算額は全主催事業の予算) 24年度予算額 23年度予算額 55,667千円 (58,941千円)		

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
東区男女共同参画連絡協議会活動支援	<p>男女共同参画の視点を持った地域リーダーの育成。</p> <p>校区男女共同参画推進活動の充実。</p> <p>校区男女共同参画推進団体間の情報交換の支援。</p>	<p>(具体的施策5再掲)</p> <p>①総会・定例会・専門部会の開催(委員:27人) 総会1回・定例会12回・専門部会(随時)</p> <p>②東区のとどい(講演会等)の開催 参加者:240人 講演:「とかくこの世は男と女」 講師:滝悦子氏(エッセイスト)</p> <p>③男女共同参画社会づくり講座 参加者:379人 テーマ「違いを認め合い、個性と能力を生かせる社会の創造を目指して」 (3回シリーズ 共催:東市民センター)</p> <p>④リーダー研修会(地域リーダー育成事業 共催:東区) 参加者:65名 「女性の地位向上のためのリーダーとは」(講義) 講師:寺坂カタエ氏 (西日本初の中学校女性校長、北九州市制50周年記念事業実行委員)</p> <p>⑤筑紫少女苑盆踊り大会(激励のため盆踊り大会に参加)</p> <p>⑥日本女性会議2012仙台(4名参加)</p> <p>⑦区事業への参加 博多どんたく東区演舞台(運営委員会、演舞台に参加)</p> <p>⑧校区団体の組織づくり 区協議会委員(校区代表)27名</p>	B	東)企画振興課
博多区男女共同参画代表者会活動支援	<p>地域における男女共同参画意識の浸透を図るとともに、女性リーダーの育成と活躍を支援し、男女が共に支えあい、安心して暮らせる社会を目指す。</p>	<p>(具体的施策5再掲)</p> <p>①発足会(6月4日)</p> <p>②役員会及び定例会(4回) 各事業の協議及び報告と校区活動の情報交換等</p> <p>③男女共同参画講演会(参加者56名) テーマ:男女共同参画の視点を持った地域づくり 講師:中嶋玲子氏</p> <p>④日本女性会議への参加(参加者数5名) 分科会・全体会へ参加及び被災地視察</p> <p>⑤博多区男女共同参画代表者会と「第3ブロック」自治協との意見交換会(参加者69名)</p> <p>⑥視察研修(参加者数:49名) 福岡県男女共同参画表彰受賞者講演 八女市の男女共同参画推進団体との意見交換会等</p> <p>⑦各校区の情報共有 各校区の広報紙を一つにまとめて綴り、各校区にて保有する。</p> <p>⑧区事業への参加協力 博多区市民どんたく隊へ参加(20名) 「まつりはかた」へ参画(44名)</p>	B	博)地域振興課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名称	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
中央区男女共同参画連絡会及び校区活動の支援	<p>校区が主体的に活動するため、情報交換や交流の場を支援していく。</p> <p>校区状況に即した支援を行うため校区状況の把握に努めるとともに、世情にあった情報発信を行っていく。</p>	<p>(具体的施策 5再掲)</p> <p>校区主体で男女共同参画を推進していくため、平成22年度に中央区男女共同参画校区団体代表者を設立。校区男女共同参画推進協議会等相互の交流及び情報交換を行っている。(平成24年度より中央区男女共同参画連絡会へ名称変更)</p> <p>①男女共同参画連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会(月1回程度)での情報交換 ・定例会での校区活動報告 ・区からの情報提供 <p>②NWEC研修への派遣及び報告</p> <p>『女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修』へ警固校区男女共同参画推進委員会会長を派遣し、その報告を区男女共同参画連絡会で3回、横浜校区など4校区で行った。</p> <p>③男女共同参画地域活動用リーフレットを活用した研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4校区で実施 講師: 校区リーフレット委員や加留部貴行氏(九大大学院客員准教授) ・参加者151名 <p>④区事業に参加</p> <p>博多どんたく港まつりパレード</p>	B	中) 地域振興・支援課
南区男女共同参画連絡会活動支援	<p>男女共同参画の視点を持った地域リーダーの育成。</p> <p>校区男女共同参画推進活動の充実。</p> <p>校区男女共同参画推進団体間の情報交換の支援。</p>	<p>(具体的施策5再掲)</p> <p>校区主体で男女共同参画を推進していくため、平成20年度に南区男女共同参画連絡会を設立。平成24年度は全体会や学習会、ブロック会にて情報交換、グループワークなどを実施した。</p> <p>区は連絡会の事務局として支援を行うとともに、校区リーダー育成講座等の区主催事業を実施した。</p> <p>1. 南区男女共同参画連絡会の活動支援</p> <p>①全体会 年2回開催(6月、3月)</p> <p>連絡会の活動内容や方向性について、各校区の意見を集約</p> <p>②学習会 年2回実施((9月、1月)</p> <p>校区が抱える問題や、お互いの考え方などについてグループワークを実施</p> <p>校区活性化、取り組み方等についても意見を交換</p> <p>③ブロック会 4ブロック 各2回開催</p> <p>ブロック毎に、より細やかな情報・意見を共有</p> <p>④役員会 年6回開催</p> <p>2. 区主催事業</p> <p>①校区リーダー育成講座 2回【参加者数:27名】</p> <p>地域で、男女共同参画の視点を持ったうえで指導的立場につける人物が増えることを目的として実施</p> <p>②南区男女共同参画セミナー【参加者数:113名】</p> <p>校区男女協及び自治協、校区住民等を対象に開催</p> <p>1)男女共同参画啓発ビデオ上映「スタートライン」</p> <p>2)講演</p> <p>「男女共同参画社会へ向けてのこれからの地域のとりくみ」</p> <p>講師: 富永 暉子氏(前福岡県男女共同参画審議会会長)</p> <p>③南区男女共同参画事業・活動報告書の発行</p> <p>【部数:1,350部】</p> <p>区主催事業や連絡会及び各校区男女協の活動実績を共有するために作成</p>	B	南) 企画振興課

1 事業名称	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
<p>城南区男女共同参画連絡会活動支援</p>	<p>各校区の自治協議会において、男女共同参画を推進する活動が実施されている。</p> <p>地域活動において、男女が共に、指導的立場に立って幅広く活躍している。</p>	<p>(具体的施策5再掲)</p> <p>1 城南区男女共同参画連絡会の活動支援</p> <p>①定例会(8回) 校区活動報告、情報交換、行政からの情報提供。</p> <p>②広報紙づくり勉強会(全2回) 地域住民に男女共同参画に対して関心をもってもらうため、読んでもらえる広報紙作りの知識を習得し、校区の広報紙作成につなげた。 ・対象:各校区男女協委員</p> <p>③啓発 広く男女共同参画への意識啓発を図るために、研修の場や公共の展示スペースを利用して、11校区の活動パネルの展示や啓発物の配布を行った。(全3回) ・まちかど文化ひろば(区役所1階ロビー) ・委員研修開催時(市民センター2階ロビー) ・男女共同参画講演会開催時(市民センター2階ロビー)</p> <p>④その他 ・「日本女性会議2012仙台」への参加 ・「アミカス記念祭」「あすばるフォーラム」への参加 ・各校区での広報紙の発行</p> <p>2 区主催事業</p> <p>①委員研修 ～体験型ワークショップ(つぶやきワークショップ)～ 参加者が身の回りの男女差の問題についてつぶやくことから、共感→気づきへと展開し、男女共同参画の視点で考え行動することを学んだ。 参加者自身の考える力と行動力を引き起こす参加型研修として実施した。 ・対象:各校区男女協委員、自治協関係者、公民館職員等 【参加人数:46名】 ・講師:オフィスビュア 男女共同参画政策アドバイザー 高崎 恵氏</p> <p>②男女共同参画講演会 講師(男性)の主夫体験に基づく講演から男女共同参画を推進する上での課題を学んだ。 また、仙台で学んできた校区委員が継続的な被災地支援の必要性、防災活動に女性も参画する必要性を報告した。 ・対象:各校区男女協委員、自治協関係者、公民館職員等 【参加人数:137名】 I部 「日本女性会議2012仙台」参加報告及び東日本大震災被災地視察報告 II部 講演「『主婦』と『主夫』かなで書けば同じ『しゅふ』」 講師:主夫 日高邦博氏</p> <p>③「日本女性会議2012仙台」への派遣 2名</p>	<p>B</p>	<p>城) 地域支援課</p>

1 事業名称	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
<p>早良区男女共同参画協議会活動支援</p>	<p>校区活動の活性化へつながる活動の支援。 男女共同参画の視点を持った地域リーダーの育成。</p>	<p>(具体的施策5再掲) 1. ブロック研修会 区内4ブロックにて委員研修会を実施 委員が研修会の企画から運営までを一貫して担当 ①早良公民館 68名(68名) 「～絆を繋ぐ～」 吉住 明海氏(「慈明院」名誉住職) ②有田公民館 55名(55名) 「あなたらしく、私らしく～身近な男女共同参画の話」 池田 良子氏(いきいき子どもネットワーク) ③飯倉公民館 66名(45名) 「「主婦」と「主夫」かなで書けば同じ「しゅふ」」 日高 邦博氏 ④西新公民館 76名(70名) 「男だ女だ言う前に、やってみようよ共同参画！」 高橋 績氏(福岡市職員) 2. 日本女性会議2012仙台への参加(委員1名参加) 3. 広報誌「かたらい」発行 早良区内公民館、行政施設などに設置 4. 委員研修会 委員が研修会の企画から運営までを一貫して担当 ①アミカス記念祭2012参加 2名(3名) 講演会「自らをヨむ。自らをカタる。」講師 角田 光代氏 ②あすばる男女共同参画フォーラム2012 7名 基調講演「女性はもっと活躍できる」等 ③講演「自分らしく生き生きと～男女共同参画ってなあに？」 22名 緒方 豊子氏(早良区男女共同参画協議会会長) ④講演「昨日・今日・明日 女と男～男女共同参画社会の実現を～」 49名 柳 淑子氏 5. 地域リーダー育成研修会 61名 「一人ひとりが“いきいき”と輝くために～福岡市における男女共同参画社会づくり」 井上 るみ氏(早良区長) 6. 「早良区男女共同参画講演会」開催 386名 「HUGのとき…誰かを、そして自分を抱きしめよう」 落合 恵子氏(作家・東京家政大学人間文化研究所特任教授)</p>	<p>B</p>	<p>早) 地域支援課 ※24年度は、地域振興課</p>
<p>西区男女共同参画協議会活動支援</p>	<p>自治協議会会長、各種団体の校区代表及び会長並びに公民館長等のいわゆる地域リーダーへ就任出来る女性を育成する。数値目標：平成27年度までに25%とする。</p>	<p>(具体的施策5再掲) 1. 西区男女共同参画フェスティバル 西区男女共同参画をすすめる会 30周年のつどい 約300名 一部：西区男女共同参画表彰(平成24年度創設)表彰式 二部：ちひろコンサート ～金子みすゞのこころにふれて～ 出演者：ちひろ(歌手) 2. 日本女性会議2012仙台参加 委員：4名 3. 委員交流・意見交換会の実施(4回実施) ・7月：テーマ「男女共同参画社会の実現を目指す ～新しい時代に向かったの自分づくり～」 講師：小串 保子氏(福岡市男女共同参画サポーター) 参加者：34名(委員・アドバイザー) ・9月：テーマ「ますます楽しくなる男女共同参画」 講師：十時 裕氏(福岡市地域活動アドバイザー) 参加者：32名(委員・アドバイザー) ・1月：テーマ「校区男女協の自治協との関わり・位置づけ」 参加者：33名(委員・アドバイザー) ・3月：テーマ「Let'sジェンダー的に振り返ってみよう！ これまでの自分・これからの自分」 講師：山岸 玲子氏(九州大学女性キャリア開発センター副センター長) 参加者：30名(委員・アドバイザー) ※地域リーダー育成事業として開催 4. 日帰りバス研修実施 筑前町男女共同参画地域づくり実行委員会との交流会 等 5. 広報紙「なぎさ」43・44号(各号6400部)発行、世帯回覧 6. 漫画で見る男女共同参画「助け合い 共に輝く未来へ」増刷 増刷部数：520部 7. 校区諸団体への女性委員就任状況再調査</p>	<p>B</p>	<p>西) 振興課 ※24年度は、企画振興課</p>

1 事業名称	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
具体的施策 33 男性の家庭生活や地域活動への参画促進				
男性セミナー ☆アマカス講座		(具体的施策 30再掲) 男性と若年層を対象とした多様なテーマの講座及び父と子を対象とした料理教室等を実施。 ◆パパと子どものクッキング 全2回(全2回) 講師:横尾妙子(管理栄養士) 参加者数:延べ50人【男:35人,女15人】 〈延べ41人【男:26人,女15人】〉 ◆男性カレッジ 全4回(全4回) 講師:宮原礼智(ファザーリング・ジャパン九州代表理事)ほか 参加者数:延べ81人 〈延べ116人〉	A	市) 事業推進課
ソーシャルビジネス(SB)振興事業	今後も当該事業を継続して実施する。	○啓発事業 ・SBフォーラム 参加116名<170名> ・SB入門セミナー 受講者153名<105名> ○支援事業 ・SB起業セミナー 受講者21名<30名> ・SB相談窓口利用件数56回<98回> ・現在のSB事業者数 126事業者<97事業者> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 6,438千円 6,395千円	A	経) 就労支援課 ※24年度は、雇用労働課
市民や企業と共働した子育て支援	平成26年度末までに、賛同企業・団体数を1500にする。	(具体的施策 28再掲) 子どもの健やかな成長を考える“きっかけ”となるよう、企業・団体に対して、“「い～な」ふくおか・子ども週間”賛同を呼びかけた。 ・平成25年3月末現在賛同数 900企業・団体 〈平成24年3月末賛同数 948企業・団体〉 ・働く人の認知度を向上するため、週間に合わせ、市営地下鉄駅構内で通勤時間帯に放送 ・“「い～な」ふくおか・子ども週間”ホームページに賛同企業・団体名及び取り組みを掲載するとともに、呼びかけ強化 ・月間(8～10月)を設定し、市役所全庁に呼びかけ ・ノ～残業デーの実施 ・子ども参観日の実施(8月3日) ・経済誌掲載	B	二) 総務企画課
活力あるまちづくり支援事業		(具体的施策 9再掲) 活力あるまちづくり支援事業補助金の交付を通じて自治協議会が行う男女共同参画の推進に関する取り組みを支援した。 補助金交付団体数 148団体(148団体) (うち147団体については自治協議会へ交付、残り1団体については自治協議会未設立のため各種団体へ交付)	A	市) コミュニティ推進課
公民館における男女共同参画学習講座のうち主に男性を対象とするもの	公民館主催事業(男女共同参画学習講座のうち主に男性を対象とするもの)実施館数の増加 18館	(具体的施策 32再掲) 公民館主催事業のうち男女共同参画学習講座を重点事業として実施。そのうち主に男性を対象としたもの。 公民館数 12館 〈13館〉 回数 42回 〈48回〉 参加人数 831人 〈1,032人〉	C	市) 公民館調整課

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
東区男女共同参画連絡協議会活動支援	男女共同参画の視点を持った地域リーダーの育成	<p>(具体的施策5再掲)</p> <p>① 総会・定例会・専門部会の開催(委員:27人) 総会1回・定例会12回・専門部会(随時)</p> <p>② 東区のとどい(講演会等)の開催 参加者:240人 講演:「とかくこの世は男と女」 講師:滝悦子氏(エッセイスト)</p> <p>③ 男女共同参画社会づくり講座 参加者:379人 テーマ「違いを認め合い、個性と能力を生かせる社会の創造を目指して」 (3回シリーズ 共催:東市民センター)</p> <p>④ リーダー研修会(地域リーダー育成事業 共催:東区) 参加者:65名 「女性の地位向上のためのリーダーとは」(講義) 講師:寺坂カタエ氏 (西日本初の中学校女性校長、北九州市制50周年記念事業実行委員)</p> <p>⑤ 筑紫少女苑盆踊り大会(激励のため盆踊り大会に参加)</p> <p>⑥ 日本女性会議2012仙台(4名参加)</p> <p>⑦ 区事業への参加 博多どんたく東区演舞台(運営委員会、演舞台に参加)</p> <p>⑧ 校区団体の組織づくり 区協議会委員(校区代表)27名</p>	B	東) 企画振興課
博多区男女共同参画代表者会活動支援	地域における男女共同参画意識の浸透を図るとともに、女性リーダーの育成と活躍を支援し、男女が共に支えあい、安心して暮らせる社会を目指す。	<p>(具体的施策5再掲)</p> <p>① 発足会(6月4日)</p> <p>② 役員会及び定例会(4回) 各事業の協議及び報告と校区活動の情報交換等</p> <p>③ 男女共同参画講演会(参加者56名) テーマ:男女共同参画の視点を持った地域づくり 講師:中嶋玲子氏</p> <p>④ 日本女性会議への参加(参加者数5名) 分科会・全体会へ参加及び被災地視察</p> <p>⑤ 博多区男女共同参画代表者会と「第3ブロック」自治協との意見交換会(参加者69名)</p> <p>⑥ 視察研修(参加者数:49名) 福岡県男女共同参画表彰受賞者講演 八女市の男女共同参画推進団体との意見交換会等</p> <p>⑦ 各校区の情報共有 各校区の広報紙を一つにまとめて綴り、各校区にて保有する。</p> <p>⑧ 区事業への参加協力 博多区市民どんたく隊へ参加(20名) 「まつりはかた」へ参画(44名)</p>	B	博) 地域振興課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
中央区男女共同参画連絡会及び校区活動の支援	<p>校区が主体的に活動するため、情報交換や交流の場を支援していく。</p> <p>また校区状況に即した支援を行うため校区状況の把握に努めるとともに、世情にあった情報発信を行っていく。</p>	<p>(具体的施策5再掲)</p> <p>校区主体で男女共同参画を推進していくため、平成22年度に中央区男女共同参画校区団体代表者を設立。校区男女共同参画推進協議会等相互の交流及び情報交換をおこなっている。(平成24年度より中央区男女共同参画連絡会へ名称変更)</p> <p>①男女共同参画連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会(月1回程度)での情報交換 ・定例会での校区活動報告 ・区からの情報提供 <p>②NWEC研修への派遣及び報告</p> <p>『女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修』へ警固校区男女共同参画推進委員会会長を派遣し、その報告を区男女共同参画連絡会で3回、福浜校区など4校区で行った。</p> <p>③男女共同参画地域活動用リーフレットを活用した研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4校区で実施 講師: 校区リーフレット委員や加留部貴行(九大大学院客員准教授) ・参加者151名 <p>④区事業に参加 博多どんたく港まつりパレード</p>	B	中) 地域振興・支援課
南区男女共同参画連絡会活動支援	<p>男女共同参画の視点を持った地域リーダーの育成。</p> <p>校区男女共同参画推進活動の充実。</p> <p>校区男女共同参画推進団体間の情報交換の支援</p>	<p>(具体的施策5再掲)</p> <p>校区主体で男女共同参画を推進していくため、平成20年度に南区男女共同参画連絡会を設立。平成24年度は全体会や学習会、ブロック会にて情報交換、グループワークなどを実施した。区は連絡会の事務局として支援を行うとともに、校区リーダー育成講座等の区主催事業を実施した。</p> <p>1. 南区男女共同参画連絡会の活動支援</p> <p>①全体会 年2回開催(6月、3月)</p> <p>連絡会の活動内容や方向性について、各校区の意見を集約</p> <p>②学習会 年2回実施((9月、1月)</p> <p>校区が抱える問題や、お互いの考え方などについてグループワークを実施</p> <p>校区活性化、取り組み方等についても意見を交換</p> <p>③ブロック会 4ブロック 各2回開催</p> <p>ブロック毎に、より細やかな情報・意見を共有</p> <p>④役員会 年6回開催</p> <p>2. 区主催事業</p> <p>①校区リーダー育成講座 2回【参加者数:27名】</p> <p>地域で、男女共同参画の視点を持ったうえで指導的立場につける人物が増えることを目的として実施</p> <p>②南区男女共同参画セミナー【参加者数:113名】</p> <p>校区男女協及び自治協、校区住民等を対象に開催</p> <p>1)男女共同参画啓発ビデオ上映「スタートライン」</p> <p>2)講演</p> <p>「男女共同参画社会へ向けてのこれからの地域のとりくみ」</p> <p>講師: 富永 暉子氏 (前福岡県男女共同参画審議会会長)</p> <p>③南区男女共同参画事業・活動報告書の発行</p> <p>【部数:1,350部】</p> <p>区主催事業や連絡会及び各校区男女協の活動実績を共有するために作成</p>	B	南) 企画振興課

1 事業名称	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
<p>城南区男女共同参画連絡会活動支援</p>	<p>○各校区の自治協議会において、男女共同参画を推進する活動が実施されている ○地域活動において、男女が共に、指導的立場に立って幅広く活躍している</p>	<p>(具体的施策5再掲) 1 城南区男女共同参画連絡会の活動支援 ①定例会(8回) 校区活動報告、情報交換、行政からの情報提供。 ②広報紙づくり勉強会(全2回) 地域住民に男女共同参画に対して関心をもってもらうため、読んでもらえる広報紙作りの知識を習得し、校区の広報紙作成につなげた。 ・対象:各校区男女協委員 ③啓発 広く男女共同参画への意識啓発を図るために、研修の場や公共の展示スペースを利用して、11校区の活動パネルの展示や啓発物の配布を行った。(全3回) ・まちかど文化ひろば(区役所1階ロビー) ・委員研修開催時(市民センター2階ロビー) ・男女共同参画講演会開催時(市民センター2階ロビー) ④その他 ・「日本女性会議2012仙台」への参加 ・「アミカス記念祭」「あすばるフォーラム」への参加 ・各校での広報紙の発行 2 区主催事業 ①委員研修 ～体験型ワークショップ(つぶやきワークショップ)～ 参加者が身の回りの男女差の問題についてつぶやくことから、共感→気づきへと展開し、男女共同参画の視点で考え行動することを学んだ。 参加者自身の考える力と行動力を引き起こす参加型研修として実施した。 ・対象:各校区男女協委員、自治協関係者、公民館職員等 【参加人数:46名】 ・講師:オフィスビュー 男女共同参画政策アドバイザー 高崎 恵氏 ②男女共同参画講演会 講師(男性)の主夫体験に基づく講演から男女共同参画を推進する上での課題を学んだ。 また、仙台で学んできた校区委員が継続的な被災地支援の必要性、防災活動に女性も参画する必要性を報告した。 ・対象:各校区男女協委員、自治協関係者、公民館職員等 【参加人数:137名】 I部 「日本女性会議2012仙台」参加報告及び東日本大震災被災地視察報告報告 II部 講演『「主婦」と「主夫」かなで書けば同じ「しゅふ」』 講師:主夫 日高邦博氏 ③「日本女性会議2012仙台」への派遣 2名</p>	<p>B</p>	<p>城) 地域支援課</p>

1 事業名称	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
早良区男女共同参画協議会活動支援	○校区活動の活性化へつながる活動の支援 ○男女共同参画の視点を持った地域リーダーの育成	(具体的施策5再掲) 1. ブロック研修会 区内4ブロックにて委員研修会を実施 委員が研修会の企画から運営までを一貫して担当 ①早良公民館 68名(68名) 「～絆を繋ぐ～」 吉住 明海氏(「慈明院」名誉住職) ②有田公民館 55名(55名) 「あなたらしく、私らしく～身近な男女共同参画の話」 池田 良子氏(いきいき子どもネットワーク) ③飯倉公民館 66名(45名) 「主婦」と「主夫」かなで書けば同じ「しゅふ」 日高 邦博氏 ④西新公民館 76名(70名) 「男だ女だ言う前に、やってみようよ共同参画！」 高橋 績氏(福岡市職員) 2. 日本女性会議2012仙台への参加(委員1名参加) 3. 広報誌「かたらい」発行 早良区内公民館、行政施設などに設置 4. 委員研修会 委員が研修会の企画から運営までを一貫して担当 ①アミカス記念祭2012参加 2名(3名) 講演会「自らをヨむ。自らをカタる。」講師 角田 光代氏 ②あすばる男女共同参画フォーラム2012 7名 基調講演「女性はもっと活躍できる」等 ③講演「自分らしく生き生きと～男女共同参画ってなあに？」 22名 緒方 豊子氏(早良区男女共同参画協議会会長) ④講演「昨日・今日・明日 女と男～男女共同参画社会の実現を～」 49名 柳 淑子氏 5. 地域リーダー育成研修会 61名 「一人ひとりが“いきいき”と輝くために～福岡市における男女共同参画社会づくり」 井上 るみ氏(早良区長) 6. 「早良区男女共同参画講演会」開催 386名 「HUGのとき…誰かを、そして自分を抱きしめよう」 落合 恵子氏(作家・東京家政大学人間文化研究所特任教授)	B	早) 地域支援課 ※24年度は、地域振興課
西区男女共同参画協議会活動支援	自治協議会会長、各種団体の校区代表及び会長並びに公民館長等のいわゆる地域リーダーへ就任出来る女性を育成する。数値目標：平成27年度までに25%とする。	(具体的施策5再掲) 1. 西区男女共同参画フェスティバル 西区男女共同参画をすすめる会 30周年のつどい 約300名 一部：西区男女共同参画表彰(平成24年度創設)表彰式 二部：ちひろコンサート ～金子みすゞのこころにふれて～ 出演者：ちひろ(歌手) 2. 日本女性会議2012仙台参加 委員：4名 3. 委員交流・意見交換会の実施(4回実施) ・7月：テーマ「男女共同参画社会の実現を目指す ～新しい時代に向かっての自分づくり～」 講師：小串 保子氏(福岡市男女共同参画サポーター) 参加者：34名(委員・アドバイザー) ・9月：テーマ「ますます楽しくなる男女共同参画」 講師：十時 裕氏(福岡市地域活動アドバイザー) 参加者：32名(委員・アドバイザー) ・1月：テーマ「校区男女共の自治協との関わり・位置づけ」 参加者：33名(委員・アドバイザー) ・3月：テーマ「Let'sジェンダー的に振り返ってみよう！ これまでの自分・これからの自分」 講師：山岸 玲子氏(九州大学女性キャリア開発センター副センター長) 参加者：30名(委員・アドバイザー) ※地域リーダー育成事業として開催 4. 日帰りバス研修実施 筑前町男女共同参画地域づくり実行委員会との交流会 等 5. 広報紙「なぎさ」43・44号(各号6400部)発行、世帯回覧 6. 漫画で見る男女共同参画「助け合い 共に輝く未来へ」増刷 増刷部数：520部 7. 校区諸団体への女性委員就任状況再調査	B	西) 振興課 ※24年度は、企画振興課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
具体的施策 34 生活的自立のための学習機会の提供				
男女の自立や男女共同参画を促進するための講座等 ☆アマカス講座		(具体的施策 30再掲) 男性と若年層を対象とした多様なテーマの講座及び父と子を対象とした料理教室等を実施 ◆パパと子どものクッキング 全2回(全2回) 講師:横尾妙子(管理栄養士) 参加者数:延べ50人【男:35人,女15人】 〈延べ41人【男:26人,女15人】〉 ◆男性カレッジ 全4回(全4回) 講師:宮原礼智(ファザーリング・ジャパン九州代表理事)ほか 参加者数:延べ81人〈延べ116人〉	A	市) 事業推進課
公民館における男女共同参画学習講座のうち主に男性を対象とするもの	公民館主催事業(男女共同参画学習講座のうち主に男性を対象とするもの)実施館数の増加 18館	(具体的施策 32再掲) 公民館主催事業のうち男女共同参画学習講座を重点事業として実施。そのうち主に男性を対象としたもの。 公民館数 12館〈13館〉 回数 42回〈48回〉 参加人数 831人〈1,032人〉	C	市) 公民館調整課

施策の方向 3 子育て・介護支援の充実

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
具体的施策 35 多様なニーズに対応した子育て支援の充実				
こどもショートステイ		保護者が病気などで家庭での養育が一時的に困難な子どもを、児童養護施設や乳児院で短期間預かるもの。 実施か所数 児童養護施設3、乳児院2 実績 229人、1,383日〈175人、1,031日〉 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 3,651千円 〈3,518千円〉	A	こ) こども家庭課
病児・病後児デイケア事業		保育園等へ通っている子どもが病気のときで、保護者が仕事の都合などで看病できない場合に、病児デイケアルームで一時預かりを行うもの。 実施か所数 乳児院 1、小児科医院15、合計16カ所 延利用数 19,789人〈19,440人〉 *平成24年4月1日に2施設(南区・西区)開設 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 233,671千円 〈220,426千円〉	A	こ) こども発達支援課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
特別保育事業 (延長保育)	延長保育172ヶ所 【平成26年度末】	保護者の就労形態の多様化や通勤時間の増加等によって、通常の午後6時までの開所時間を超えて保育を必要とする場合に、保育時間を延長するもの。 延長保育181ヶ所(1～4時間)(171カ所) 予 算 額 (※予算額は全体予算) 24年度予算額 23年度予算額 864,089千円 (808,119千円)	B	二) 保育課
特別保育事業 (一時保育)	一時保育 継続実施	保護者の急病や仕事、リフレッシュなど、保育所に入所していない子どもについて一時的に保育が必要となる場合に、保育所で預かるもの。 一時保育26ヶ所(29カ所) 予 算 額 (※予算額は全体予算) 24年度予算額 23年度予算額 864,089千円 (808,119千円)	C	二) 保育課
特別保育事業 (休日保育)	休日保育7ヶ所 【平成26年度末】	保護者が日曜・休日に就労している場合に、市内の保育所に入所している子どもを、実施保育所で預かるもの。 休日保育4ヶ所(4ヶ所) 予 算 額 (※予算額は全体予算) 24年度予算額 23年度予算額 864,089千円 (808,119千円)	C	二) 保育課
特別保育事業 (夜間保育)	夜間保育2ヶ所 【平成26年度末】	保護者が夜間に就労している場合等に対応するため、保育所の開所時間を午後10時までとし、さらに深夜2時までの延長保育を行うもの。 夜間保育2ヶ所(2ヶ所) 予 算 額 (※予算額は全体予算) 24年度予算額 23年度予算額 864,089千円 (808,119千円)	A	二) 保育課
特別保育事業 (特定保育)	特定保育7ヶ所 【平成26年度末】	短時間勤務や隔日の勤務などで、週2、3回程度または午前か午後のみなどの保育を必要とする場合に、必要な日時について保育する。 特定保育4ヶ所(4ヶ所) 予 算 額 (※予算額は全体予算) 24年度予算額 23年度予算額 864,089千円 (808,119千円)	C	二) 保育課
特別保育事業 (障がい児保育)	全保育所で受入 【平成26年度末】	全保育所で受入可 予 算 額 (※予算額は全体予算) 24年度予算額 23年度予算額 864,089千円 (808,119千円)	A	二) 保育課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
一時預かり事業	実施施設数8か所 (新・福岡市子ども総合計画, 平成26年度末計画目標)	保護者等が冠婚葬祭や通院, リフレッシュ等のために必要なときに, その養育する児童を一時的に預かることで, 乳幼児の保護者の子育てに関する不安感・負担感を軽減し, 虐待防止と児童の健全育成を図る。 実施施設数 3か所(2か所) 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 7,796千円 (5,069千円)	A	こ) 子育て支援課
ファミリーサポートセンター事業	会員数7,200人 (新・福岡市子ども総合計画, 平成26年度末計画目標)	「子育てを応援して欲しい人」と「子育てを応援したい人」が地域の中で育児の相互援助活動を行う。 ・保育所・幼稚園・学童保育の迎え及び帰宅後の預かり ・保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助 ・子どもの習い事等の場合の援助 など ・会員登録数 依頼会員(子育てを応援して欲しい人) 4,886人(4,596人) 提供会員(子育てを応援したい人) 862人(820人) 両方会員(子育てを応援して欲しいし, 応援もしたい人) 878人(841人) 合 計 6,626人(6,257人) ・活動状況 18,143回(14,547回) 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 24,372千円 (24,237千円)	A	こ) 子育て支援課
保育所の整備	保育所入所定員の増加	早期の待機児童の解消に向け, 様々な手法を用いて, 保育所整備を実施。 平成22年度:755人分の定員増(家庭的保育事業15人分含む) (平成23年4月1日保育所入所定員 25,104人) 平成23年度:1,160人分の定員増(家庭的保育事業80人分含む) (平成24年4月1日保育所入所定員 26,264人) 平成24年度:1,400人分の定員増(家庭的保育事業40人分含む) (平成25年4月1日保育所入所定員 27,664人) 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 2,088,137千円 (2,083,912千円) ※予算額の備考 平成24年度9月、2月補正予算額(追加): 4,871,195千円	A	こ) 保育課 こ) 子育て支援課
留守家庭子ども会事業	小学校内に設置した「留守家庭子ども会」等において, 学年拡大に係る対象校・学年を順次拡大し, 平成27年度当初までに, 全施設での全学年受入を実施する。	放課後帰宅しても保護者が労働等で不在である家庭の児童を対象に「留守家庭子ども会」を設置し, 児童の健全育成と子育て支援を行う。 設置校区 141か所(138校区)〈142か所(139校区)〉 平成20年9月から午後7時までの開設時間の延長を実施。 平成21年7月から4年生の長期休業中のみ受入れを実施。 平成22年4月から67校区において4年生の通年受入れを実施。 平成23年4月から24校区において4年生の通年受入れを実施。 また, 22年度に4年生を受け入れた67校で5年生の通年受入を開始。 平成24年4月から24校区において4年生の通年受け入れを実施。また, 23年度に4年生を受け入れた24校で5年生の通年受入を開始, 5年生を受け入れた67校で全学年の通年受入を開始。 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 2,931,296千円 (2,692,666千円)	A	こ) 放課後子ども育成課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
具体的施策 36 子育てしやすい環境づくり				
公民館における主催事業の実施(乳幼児ふれあい学級・子育てサポーター養成講座)	公民館主催事業(乳幼児ふれあい学級・子育てサポーター養成講座)実施館数の増加 160館	公民館主催事業のうち乳幼児ふれあい学級・子育てサポーター養成講座を重点事業として実施。 公民館数 121館<120館> 回数 1,231回<1,243回> 参加人数 48,372人<50,199人> 予 算 額(予算額は全主催事業の予算) 24年度予算額 23年度予算額 55,667千円 <58,941千円>	B	市) 公民館調整課
地域子ども育成事業	140校区で育みネットを実施する。	地域の子どもを育む力の回復をめざして、地域の大人の意識変革、子どもを育む活動の活性化やネットワークの再生に取り組み、子どもたちを健やかに育む環境づくりを推進する。 ○育みネット支援事業 地域の子どもを育むネットワークづくり支援。 ・109校区実施済<103校区> ○研修講師派遣事業 子どもを見守り育もうという意識の向上を図る目的などで開催される研修会に講師を派遣する。 ・27回派遣<21回派遣> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 54,464千円 <55,983千円>	B	こ) 青少年健全育成課
区青少年育成推進事業	地域・学校・関係機関と一体となり、非行防止・啓発事業等、地域に根ざした各種青少年育成事業を推進する。	○青少年を見守る店 青少年の初発型非行を防止するため、「愛の声かけ」等の活動を通じて地域ぐるみによる非行防止体制の強化を図る。 ・551店舗<569店舗> ○中学校校区青少年育成連絡協議会への助成 中学校区の範囲で街頭パトロールなどの非行防止活動を実施する協議会の活動費を助成する。 ・助成額68校区×75千円=5,100千円 ○少年愛護パトロール員 区長が委嘱するパトロール員が、それぞれの校区をパトロールする中で、地域社会の不良環境や健全育成上の阻害要因等を早期に発見してもらう。 ・1,063名委嘱<1,063名> ○立入調査 青少年にとって有害な環境を浄化するために、コンビニや書店への立ち入り調査を行い、指導を行う。 ・立入件数1,367件<1,225件> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 50,104千円 <51,545千円>	B	こ) 青少年健全育成課
旅館・カラオケボックス規制指導	善良な風俗及び生活環境を保持し、青少年の健全な育成を図る。	○旅館等・カラオケボックス設置規制指導 旅館等やカラオケボックスを設置しようとする業者等に対して助言・指導を行う。 ・相談、協議回数22回<22回> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 4,353千円 <4,349千円>	B	こ) 青少年健全育成課
地域子育て交流支援事業	延べ参加者数138,000人 (新・福岡市子ども総合計画、平成26年度末計画目標)	地域全体で乳幼児の子育てを支援する体制づくりを行い、地域の見守りのもと、公民館等を活用して、乳幼児親子が気軽に集える「子育て交流サロン」の開設や運営を支援する。 新設数 3か所、延べ155か所<5か所、延べ152か所> 参加者数 22年度 103,617人 23年度 96,065人 24年度 88,520人 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 8,459千円 <8,459千円>	B	こ) 子育て支援課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
子どもプラザ	設置数14か所 (新・福岡市子ども総合計画, 平成26年度末計画目標)	乳幼児親子がいつでも気軽に利用でき, 子育てに関する相談や情報交換ができる子育て支援の拠点として, 子どもプラザを開設し, 地域で孤立しがちな親の子育て不安の軽減を図る。 設置数 14か所(14か所) 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 163,092千円 <202,265千円>	A	二) 子育て支援課
ファミリーサポートセンター事業	会員数7,200人 (新・福岡市子ども総合計画, 平成26年度末計画目標)	(具体的施策 35再掲) 「子育てを応援して欲しい人」と「子育てを応援したい人」が地域の中で育児の相互援助活動を行う。 ・保育所・幼稚園・学童保育の迎え及び帰宅後の預かり ・保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助 ・子どもの習い事等の場合の援助 など ・会員登録数 依頼会員(子育てを応援して欲しい人) 4,886人 <4,596人> 提供会員(子育てを応援したい人) 862人 <820人> 両方会員(子育てを応援して欲しいし, 応援もしたい人) 878人 <841人> 合 計 6,626人 <6,257人> ・活動状況 18,143回<14,547回>	A	二) 子育て支援課
子育てサークル代表者交流会	サークルの活動休止などにより参加者が減少傾向にあるが, より多くの方に参加してもらうように内容の充実を図る。	中央区内の子育てサークルの運営や相互交流が円滑になされるよう, 中央区地域保健福祉課と共催で実施した。 参加者数25人<22人> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 28千円 <41千円>	B	中) 生涯学習推進課 中) 地域保健福祉課
子育て支援に関する主催事業	子どもの育ちにとって, 時間・空間・仲間が重要であり, それに関わる親・サポーター等が共に体得できる内容のものを実施していく。	○子育てふれあい広場「のびのび夢ひろばじょうなん」 子育てに関する活動をしている市民グループと福岡大学や中村学園大学等のボランティアスタッフと協働で実施した。 (実施日) 平成24年9月9日(日) (参加者数) 342人 <H23は2回開催, 計473名> ○子育て講座「乳幼児と大人のための外遊び講座」 子育て中の保護者はじめ大人たちが, 日頃の子育てを見つめなおす機会として乳幼児と大人が共に外遊びの実体験をする講座を実施した。 (実施日) H24.5月~H24.11月 全6回開催 (参加者延べ数) 136組<H23は4回開催106組> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 238千円 <521千円>	C	城) 生涯学習推進課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
児童虐待防止事業	一時保護児、乳児院、児童養護施設入所児の1年以内での再統合ケース：80.0%	<p>児童虐待の未然防止、早期発見・対応、子どもや親のケア、再発防止などを行うもの。</p> <p>1 早期対応・相談体制の強化 児童福祉司等の専門性強化、法的対応機能強化事業の実施</p> <p>2 子どもや親への支援体制の強化 親の養育支援事業の実施</p> <p>3 関係機関とのネットワークの強化 区子育て支援課との連携強化</p> <p>※一時保護児、乳児院、児童養護施設入所児の1年以内での再統合ケースの実績 H24年度 52.4% ※当初値 62.2%(H14年度)</p>	B	こ) 子ども緊急支援課
		<p>予 算 額(※予算額のうち特定財源 3,062千円)</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 14,551千円 <17,886千円></p>		
区家庭児童相談室	身近な相談窓口としての機能を充実し迅速かつ的確な対応を目指す。	<p>(具体的施策 15再掲)</p> <p>婦人保護相談 延べ件数 5,301件<5,133件> 母子自立相談 延べ件数 8,179件<6,961件> 家庭児童相談 延べ件数 10,916件<7,975件> うち、DV相談 延べ件数 3,016件<2,379件> (※婦人保護相談に含む)</p>	B	こ) 子ども家庭課
街頭指導、青少年愛護協力員		<p>中学・高等学校教諭や民生委員・児童委員等に「子ども生活指導員」を委嘱し、市内の繁華街等(天神、JR博多駅など市内14か所)のゲームセンター、カラオケボックス、スーパー、デパート、商店街等の盛り場、公園など青少年のたまり場を重点として、街頭指導活動を実施した。</p> <p>街頭指導：実施回数223回、従事人員879人、指導人員1564人(483人) ※()内は女子で内数。 <街頭指導：実施回数244回、従事人員919人、指導人員2398人(861人)></p>	B	こ) 子ども相談課
		<p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 2,433千円 <2,531千円></p>		
アミカスにおける託児の実施	安全で快適な託児を実施する。	<p>アミカスで行う講座・講演会において託児グループによる託児を実施した(18年度からアミカス主催講座については無料とした。)</p> <p>託児付き講座・講演会：31講座<38講座> 託児参加者数：690人<927人> 託児スタッフ延べ人数：521人<797人> 託児スタッフ登録人数：28人<39人></p>	A	市) 事業推進課
		<p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 - -</p>		
アミカスBOOKタイム	乳幼児を育てる保護者のリフレッシュを図る。	<p>託児付きで読書やビデオ鑑賞の機会を提供。</p> <p>5月～12月 全8回 参加者110人 (6月～2月 全8回 参加者97人)</p>	B	市) 事業推進課
		<p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 - -</p>		
市民や企業と共働した子育て支援	平成26年度末までに、賛同企業・団体数を1500にする。	<p>(具体的施策 28再掲)</p> <p>子どもの健やかな成長を考える“きっかけ”となるよう、企業・団体に対して、“「い～な」ふくおか・子ども週間”賛同を呼びかけた。</p> <p>・平成25年3月末現在賛同数 900企業・団体 <平成24年3月末賛同数 948企業・団体></p> <p>・働く人の認知度を向上するため、週間に合わせ、市営地下鉄駅構内で通勤時間帯に放送</p> <p>・“「い～な」ふくおか・子ども週間”ホームページに賛同企業・団体名及び取り組みを掲載するとともに、呼びかけ強化</p> <p>・月間(8～10月)を設定し、市役所全庁に呼びかけ</p> <p>・ノー残業デーの実施</p> <p>・子ども参観日の実施(8月3日)</p> <p>・経済誌掲載</p>	B	こ) 総務企画課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
留守家庭子ども会事業	小学校内に設置した「留守家庭子ども会」等において、学年拡大に係る対象校・学年を順次拡大し、平成27年度当初までに、全施設での全学年受入を実施する。	<p>(具体的施策 35再掲)</p> <p>放課後帰宅しても保護者が労働等で不在である家庭の児童を対象に「留守家庭子ども会」を設置し、児童の健全育成と子育て支援を行う。</p> <p>設置校区 141か所(138校区)〈142か所(139校区)〉</p> <p>平成20年9月から午後7時までの開設時間の延長を実施。 平成21年7月から4年生の長期休業中のみの受入れを実施。 平成22年4月から67校区において4年生の通年受入れを実施。 平成23年4月から24校区において4年生の通年受入れを実施。 また、22年度に4年生を受け入れた67校で5年生の通年受入を開始。 平成24年4月から24校区において4年生の通年受け入れを実施。また、23年度に4年生を受け入れた24校で5年生の通年受入を開始。5年生を受け入れた67校で全学年の通年受入を開始。</p>	A	こども育成課
こども総合相談センター総合相談事業		<p>電話相談受理件数(全体) … 10,896件(10,210件)</p> <p>面接相談受理件数(全体) … 3,812件(3,816件)</p> <p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 480,022千円 (419,001千円)</p>	B	こども支援課
バリアフリーのまちづくり推進		<p>1. 福岡市バリアフリー基本計画の策定 ・市民、事業者等で構成する協議会実施:3回 〈庁内実務者会議実施:3回〉</p> <p>2. バリアフリー化推進の普及・啓発、育成</p> <p>① 出前講座 ・実施回数:3回、参加人数:65名 〈実施回数:3回、参加人数:275名〉</p> <p>② 市職員向け研修(参加人数) ・技術者研修:60名、体験研修:10名 〈技術者研修:42名、体験研修:11名〉</p> <p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 5,365千円 (7,579千円)</p>	B	(保) 政策推進課
都心部風俗関係違反広告物除却作業	当該地区における風俗関係違反広告物の根絶	<p>都心部の博多駅地区、中洲地区、天神地区で、青少年の健全育成を阻害するピンクチラシ等の風俗関係違反広告物を業者委託により除却した。</p> <p>違反(除却)枚数:52,049枚(100,588枚)</p> <p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 4,200千円 (4,567千円)</p>	B	(住都) 都市景観室
鉄道駅施設バリアフリー化促進事業	高齢者や障がいがある人をはじめ全ての公共交通利用者が安全且つ円滑に移動できるよう公共交通施設のバリアフリー化を推進する。	<p>西鉄三苦駅のバリアフリー化整備(エレベーター2基)に着手したが、関係者との協議に期間を要し完了時期についてH25へ繰越。</p> <p>〈平成23年度〉</p> <p>西鉄三苦駅及びJR下山門駅におけるバリアフリー化設備の整備促進に向けた地元及び鉄道事業管理者との協議・検討。</p> <p>予 算 額</p> <p>24年度予算額 23年度予算額 33,766千円 (50,475千円)</p>	B	(住都) 交通施策推進課

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
具体的施策 37 介護支援の充実				
介護保険事業	第5期介護保険事業計画の円滑な実施	要介護認定者数 52,771人(年度平均)<49,588人> 介護サービス利用者数 41,438人(年度平均)<38,925人> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 76,512,854千円 <68,728,770千円>	A	(保) 介護保険課
地域支援事業及び在宅高齢者福祉事業	高齢者が住み慣れた地域や家庭で、安心して暮らし続けられるよう、地域における身近な総合相談機能の充実に努めるとともに、介護予防を推進し、自宅での自立支援や介護者の負担軽減を図る。	○地域支援事業 地域で生活する高齢者、その家族を支援するため、介護予防事業(高齢者が要介護状態になることを防ぐ)、包括的支援事業(地域包括支援センターが実施)、任意事業(高齢者が地域で自立した日常生活を送れるように支援)を実施する。 地域支援事業32事業(介護予防事業(11事業)、包括的支援事業(2事業)、任意事業(19事業))及び在宅福祉サービスの13事業を実施 <地域支援事業32事業(介護予防事業(12事業)、包括的支援事業(2事業)、任意事業(18事業))及び在宅福祉サービスの15事業を実施> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 856,373千円 <798,797千円>	A	(保) 介護保険課 ※24年度は、地域福祉課
地域包括支援センター事業	地域における高齢者の身近な相談体制充実を図る	○相談実績 実相談人数 28,207人<24,288人> 延相談人数 121,020人<106,241人> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 996,920千円 <877,195千円>	A	(保) 地域保健課
介護老人保健施設等建設費助成	第5期福岡市高齢者保健福祉計画(平成24年度から平成26年度) 介護老人保健施設平成26年度整備計画数 2,610人分	要介護高齢者の増加に対応するため、医療法人等が行う介護老人保健施設の整備に対して助成を行う。 24年度末現在 累計 27施設・定員2,609人<27施設・定員2,609人> 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 -	A	(保) 介護サービス課 ※24年度は、高齢者施設支援課
ふれあいネットワークふれあいサロン	ふれあいネットワークは実施自治会数を、ふれあいサロンは実施箇所数を増やし、住民による地域保健福祉活動の充実を図る。	高齢者等を地域で支えるしくみづくりの推進をとおして、男女が共に仕事と家庭を両立できる環境づくりを図った。 ・ふれあいネットワーク 127校区<128校区> 1,665自治会数<1,638自治会数> ・ふれあいサロン 139校区<134校区> 313箇所<292箇所> ※平成24年度実績は12月末現在の数値 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 36,919千円 <34,788千円>	A	(保) 高齢社会政策課 ※24年度は、地域福祉課
特別養護老人ホーム等建設費助成	第5期福岡市高齢者保健福祉計画(平成24年度から平成26年度) 特別養護老人ホーム平成26年度整備計画数 5,100人分	要介護高齢者の増加に対応するため、社会福祉法人が行う特別養護老人ホーム等の整備に対して助成を行う。 24年度開設 8施設・定員402人<5施設・定員223人> 累計 61施設・定員4,396人<54施設・定員3,994人> (計画済 5,126人分) 予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 1,359,258千円 <2,468,931千円>	A	(保) 介護サービス課 ※24年度は、高齢者施設支援課

施策の方向 4 ひとり親家庭への支援の充実

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
具体的施策 38 相談の充実				
区家庭児童相談室	身近な相談窓口としての機能を充実し迅速かつ的確な対応を目指す。	(具体的施策 15再掲) 婦人保護相談 延べ件数 5,301件<5,133件> 母子自立相談 延べ件数 8,179件<6,961件> 家庭児童相談 延べ件数 10,916件<7,975件> うち、DV相談 延べ件数 3,016件<2,379件> (※婦人保護相談に含む)	B	こ) こども家庭課
区家庭児童相談室 相談員研修	身近な相談窓口としての機能を充実し迅速かつ的確な対応を目指す。	本庁での業務研修や福岡県社会福祉協議会による社会福祉施設職員研修などの派遣研修を行っている。このうちDVについては、福岡県女性相談所でのスーパービジョン研修等に派遣している。	A	こ) こども家庭課
		予 算 額		
		24年度予算額 23年度予算額		
民生委員・児童委員、主任児童委員研修	社会奉仕の精神をもって相談、援助に当たり社会福祉の増進に努める民生委員・児童委員、主任児童委員の資質の向上を図る研修を毎年実施する。	○幹部研修(1回実施、参加者188人)<(1回実施、参加者186人)> ○主任児童委員研修(1回実施、参加者193人)<(1回実施、参加者200人)> ○専門部会研修(以下は市レベルの研修である。各区レベルでも全民生委員・児童委員を対象に別途、研修を実施している。) (10回実施、参加者のべ202人)<(10回実施、参加者のべ200人)>	B	保) 高齢社会政策課 ※24年度は、地域福祉課
		予 算 額		
		24年度予算額 268,508千円 23年度予算額 <269,049千円>		
アミカス相談室	日常生活の中で直面する様々な問題について相談員などが相談を受け、問題解決に向けて援助する。	(具体的施策 15再掲) (1)相談業務 ①総合相談(相談・面接) ②アミカスDV相談ダイヤル ③法律相談 ④男性のための相談ホットライン (2)講座などによる啓発活動 ①法律講座 年6回<6回> 参加者 延べ199名<184名> ②グループワーク 年2講座12回 参加者 延べ59人<90人> ③DV講座 2回<2回> 参加者14名<23名> ④自主グループ支援 13回<7回>55人<23人> (3)相談員の会議・研修 ①DV相談窓口の相談員連絡会議 1回<1回> ②事例検討・研修会 年5回<5回> <事業実績> ○相談件数 4,764件<4,818件> 再掲:DV相談 1,097件<1,167件>	B	市) 事業推進課
母子福祉センター事業	今後も当該サービスを継続して実施する。	母子家庭等の福祉を増進するため、各種相談に応じるとともに、本市における母子家庭の自立・就業支援の中心施設として、他の相談機関等と連携しながら就業情報の提供や就業支援講習会等の事業を実施している。 利用者数12,338人<12,689人>	A	こ) こども家庭課
		予 算 額		
		24年度予算額 55,154千円 23年度予算額 <54,918千円>		

基本目標3 男女が共に仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します

1 事業名	2 業績目標	3 事業実績及び予算額	4 評価	5 事業実施担当課
具体的施策 39 ひとり親家庭の自立促進と生活の安定				
母子家庭等日常生活支援事業	今後も当該サービスを継続して実施する。	母子家庭、父子家庭及び寡婦の修学等の自立促進に必要な事由や疾病等の社会的な事由により、一時的に介護、保育等のサービスが必要なとき、家庭生活支援員を派遣して、必要な介護及び児童の保育を行うもの。 425時間(296時間)	A	こ) こども家庭課
		予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 415千円 (421千円)		
母子福祉センター事業	今後も当該サービスを継続して実施する。	(具体的施策 38再掲) 母子家庭等の福祉を増進するため、各種相談に応じるとともに、本市における母子家庭の自立・就業支援の中心施設として、他の相談機関等と連携しながら就業情報の提供や就業支援講習会等の事業を実施している。 利用者数12,338人(12,689人)	A	こ) こども家庭課
ひとり親家庭就業支援事業	今後も当該サービスを継続して実施する。	○ひとり親無料職業紹介事業 平成20年12月から母子福祉センターにて無料職業紹介事業を実施 就職者数8名(15名) ○自立支援プログラム策定事業 児童扶養手当受給者の自立を促進するため、個々の状況に応じた自立支援計画書(プログラム)を策定し、個別・継続的な自立・就労支援を行う。 就職者数13件<-件>	A	こ) こども家庭課
		予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 3,246千円 (2,014千円)		
母子家庭自立支援給付金事業	今後も当該サービスを継続して実施する。	○自立支援教育訓練給付金事業 母子家庭の母が能力開発のために資格等を取得する際、その受講料の2割(最高10万円)を支給。 支給件数1件(4件) ○高等技能訓練促進費事業 母子家庭の母が看護師等の就職に結びつきやすい高度な資格を取得する際、月額100,000円(課税世帯は月額70,500円)の促進費を支給。 支給件数120件(115件) また、修業後50,000円(課税世帯は25,000円)の修了一時金を支給。 支給件数42件(37件)	A	こ) こども家庭課
		予 算 額 24年度予算額 23年度予算額 207,316千円 (197,540千円)		
市営住宅へのひとり親家庭優遇措置	市営住宅入居時の抽選倍率が、全体平均倍率よりもひとり親世帯の倍率を低い状態で維持する。	一般世帯と同じ住宅に申し込みを行うひとり親世帯に対し、抽選番号を一般世帯よりも多く割り振ることにより当選の確率を高くして配慮している。 申し込み回数が4回目(落選回数3回)までの人には1個、5回目以上(落選回数4回以上)の人には2個の抽選番号がプラスされる。 ○ ひとり親世帯の抽選倍率 13.66倍(全体平均 14.41倍)<16.78倍(全体平均 15.76倍)>	A	(住都) 住宅管理課
		予 算 額 24年度予算額 23年度予算額		